



<寒さに弱い植物の冬越し法>

Q. ファレノプシスやポインセチアなどを枯らさずに冬越しさせたいのですが、どうしたらよいでしょうか？

A. 水やり、肥料やりを控え、保温に努めます。

《ポイント》

高温性の植物は、明け方に気温が最も下がらない所におき、日中と夜間の温度差が10から15℃以上にならないようにします。

成育限界温度

植物には種類ごとに、それぞれ生育に適する温度と生命を保てる限界温度があります。

○冬の屋外で耐える(多少0℃以下でも可)

- ・パンジー、デージー、チューリップ、ヒアシンス、スイセン、クロッカス、ハボタン、シュロチク。

○室内で無暖房でも耐える(5~10℃)

- ・ゼラニウム、シクラメン、プリムラ、シネラリア、ベゴニア、ゴムノキ、フェニックス、デンドロビウム、シンビジウム、パフィオペディラム、アジアンタム、タマシダ、オオタニワタリ、カンノンチク。

○室内で加温が必要な物(10℃以上)

- ・カトレア、ファレノプシス、ポインセチア、ハイビスカス、アフェランドラ、クロトン、フクシア、セントポーリア、インパチエンス。

昼と夜の温度差

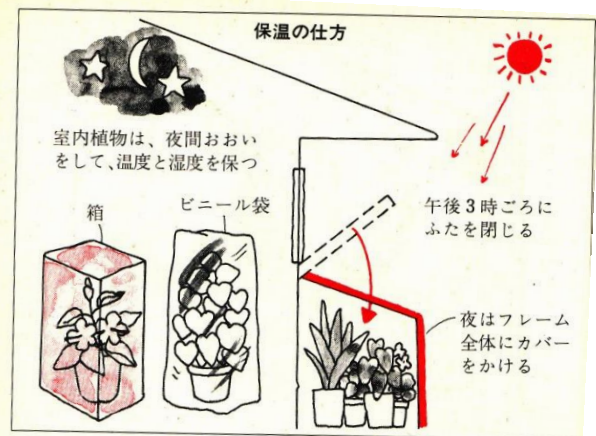
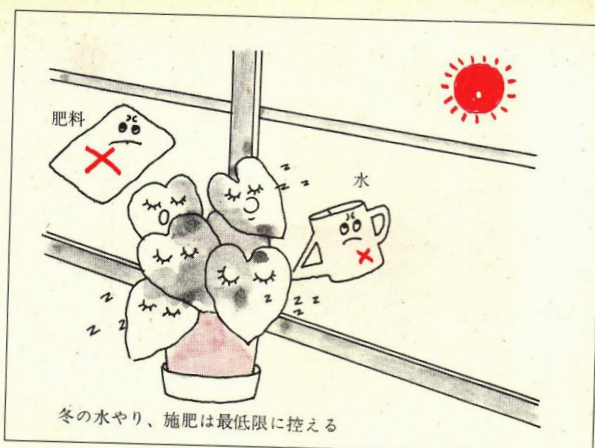
昼と夜とは10~15℃の温度差があるのが植物にはよいようです。

しかし、これ以上の温度差があるとかえって植物にはよくありません。

保温の方法

保温をするときは、日中の温度が下がる前に、暖かさをできるだけ封じ込める処置が大切です。まだ日のあたっている午後3時ごろにふたを閉じてフレーム内を暖め、30~40分後に、フレーム全体にさらにカバーをかけて中に溜まった熱を逃がさないようにします。

室内の鉢植えは、寝る前にビニール袋に入れたり、段ボール箱を被せたりして、現在の温度を少しでも長く保たせるようにします。





<植木の病害虫防除>

Q. 冬の間には植木の病気や虫の防除をしたいと思います。その方法について教えてください。

A. 植木の枝・葉の整理と薬剤の散布を行います。

<<ポイント>>

植木は低温で活動を休止しているため、濃度の高い薬剤が使えます。

石灰硫黄合剤は使えませんから、機械油乳剤や普通の殺虫剤・殺菌剤を使います。

1. 枯枝、枯木の整理

枯枝は切り取り、枯木は掘り上げて焼却します。地中の根も掘り上げないと、もんぱ病や白絹病の病巣になるのでできるだけ掘り上げます。

2. 落葉の片付け

放置すると病気や虫の巣になりますから、一度、集めて堆肥や腐葉土として、再び木の周りに埋め込みます。

3. 虫の卵やサナギを取る

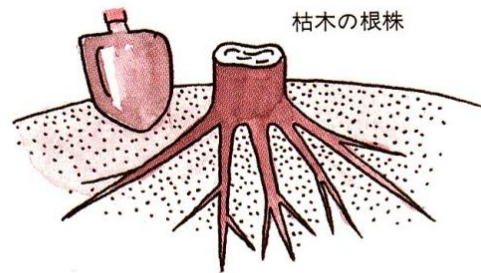
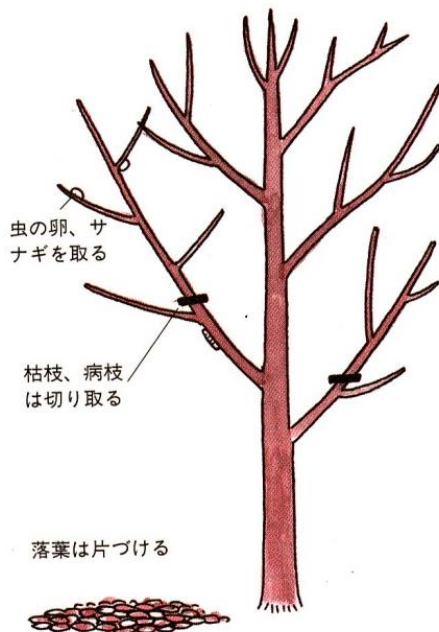
木の股や樹皮の間についているサナギや卵を取り処分します。イラガやミノムシなどは多ければ枝ごと切り取ります。木の根元の樹皮の間の卵などはタワシや竹べらで落とします。

4. 薬剤散布

カイガラムシは機械油乳剤(95%)を落葉樹は20~30倍、常緑樹は40~60倍で散布します。

その他の虫はオルトランやスミチオンなどの殺虫剤を、斑点性病害はトップジンMやベンレートなどを規定濃度で散布します。

<枯木、根株の片づけ>



白絹病菌がとりつくので、きれいに掘り取る